

開会

政策企画課長：ただいまより「大学のあるまち」を考えるフォーラムを開催いたします。私は本日司会進行を務めさせていただきます、北上市企画部政策企画等の島津と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。なお、本日は報道機関のテレビカメラも入っておりますので、その点につきましてはご了承いただきますようお願いします。ここで、本日の流れについてご説明いたします。最初に、主催者挨拶、基調報告といたしまして、市長から市の将来予測や、これまで市民から寄せられた疑問について解説しながら、市として大学設置を進める方針を説明いたします。次に、前・北上市長で、一般社団法人都市創生研究所代表理事である高橋敏彦氏をモデレーターに大学の基本構想を検討いただいた委員の皆様とトークセッションを行います。その後、20分から30分の休憩を挟みまして、会場からの質問にお答えする時間といたします。なお、見せられたご質問に対しましては、すべて回答いたします。質問がある場合はトークセッションが終わりましたら、質問用紙をお配りいたしますので、質問用紙にご質問やご意見をご記入いただき、休憩時間に受付の方にお出しitただくようお願いいたします。なお、質問につきましては、質問用紙1枚につき、1つの質問という形でお出しくださるようお願いいたします。それでは、主催者挨拶、基調報告として、八重樫市長よろしくお願ひいたします。

主催者挨拶

市長：皆様こんにちは。北上市長の八重樫でございます。今日はこのように多くの皆様にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。この北上市立大学の検討でございますが、当初はもう、かなり以前からですね、北上に大学が必要ではないかという議論があったわけでございます。近年の経緯から簡単に申し上げますと、平成の合併前後ではございますけれども、一旦、難しいということで、断念をしておりましたけれども、令和に入りまして、様々な環境変化の中で、やはり北上、次のステージ、さらなる持続的な発展を目指すために大学が必要ではないかということで、総合計画の方にも高等教育機関の設置ということをアクションプラン中に盛り込んで、令和4年、5年と基本的な調査を行って、コンサルにも頼んでですね、北上市ならば採算を取れるような報告もいただいて、市として、基本構想の策定委員会というものを作った上でですね、議会、市民の皆様と、いろいろ議論をした上で、これを進めていこうということで、令和6年度、昨年度末の3月に、今日も基本構想策定委員会の委員さん、次のディスカッションの方でお出でいただいてますけれども、そういうことですね、市として今年3月、基本構想というのを一応決定いたしまして、その上で、約半年間、議会での議論、様々な団体・市民の皆様への説明、或いは広報きたかみ、或いは各公共機関でのパネルの展示等々で、市民の皆様に周知を図ってきました。そして今、この9月議会の真っ最中ですが、約2年、3年前から議論にはなっておりましたけれども、今さらに市議会の方で、様々な議論しての最中でございます。そういう中で、本日、市民フォーラム、「大学のあるまち」考える～将来のまちの姿、目指すまちの姿～ということで、改めて開催することといたしました。冒頭私の方から、改めて北上市がなぜ大学、それも市立大学かということと、これまで様々、市民の皆様から、

リスクの問題、疑問点をいただいております。大きく言って財政運営の問題、学生が本当に集まるのかというところが大きな問題でございます。それ以外もあるかと思いますけれども、冒頭私、30分弱ですが、そちらについてご説明をいたしまして、あとは会場の皆様からペーパーを送らせていただきますが、後半の方で、質疑応答、或いはやりとりをさせていただきたいということで本日は進めさせていただきたいと思います。それではですね、ちょっと私の足を痛めていてですね、この後は着座でご説明をいたします。

基調報告

市長：お手元にパワーポイントの紙、同じものでございます。まずもって、北上市、現在どういうことか。本当にご案内とおり、北東北の十字路ということで、交通の便、道路、鉄道が東西、南北、ちょうど十字路になっています。非常に恵まれた地でございます。現在では産業集積ということで、特に工業については県内ではトヨタさんのある金ヶ崎に次いで第2位。東北でも昨年は8位か9位ですけれども、かなりの製造出荷額となっています。天の時、地の利、人の和と言いますけれども、地の利だけではなくて、北上市がこの歴史の中で、このチャンスをいかに掴んで、それにチャレンジをして、そして、北上人の気質ですね、このように、このまちづくりを進めてきたんだということから話したいと思います。もうご案内のとおり、南部・伊達領の境ということで、交流が盛んでございました。そういうことで、いろいろな情報とか、いろいろな要素が混ざり合って、やはり先取の精神といいますか、先駆的な新しいことに挑戦するような、市民の気質が生まれてきたのではないかと。そして、昭和初期、戦前からですね、やはり農業だけでは難しいということで、あと次男、三男対策もございましたけれど、北上を今後発展する工場を誘致することが大事だということで、戦争を挟んでですけれども、戦前、今の黒工をですね、誘致したと。当時の黒沢尻町役場の歳出の2倍の建設費を負担ということでございます。現在北上市の歳出はざっくり言って500億ですけれども、今で言えば1000億。それをかけてやろうという、本当にすごい決断だったと思います。その昭和の大合併やりまして、30年代から、もう全国でも先駆けて、県ではなくて市を中心とした工業団地をどんどん作って、企業集積を進めていったという経緯がございます。これまで、ターニングポイントが4つあったと思います。今申し上げた黒工の誘致。あとは平成入ってからになりますけれども、相去ですね。イノベーションパーク。これにつきましては、オフィスアルカディア整備事業促進の第1号、全国でも第1号指定になっております。そこで平成8年9年ぐらいから本格的に整備を始めまして、オフィスプラザを中心に、様々な産業連携、産業支援機関。岩手大学さんとか、産業振興センター、あと高等職業訓練校などそういったものが集積して、北上の企業さんの研究開発の後押しをしている。こういう、大規模な施設が、市の中心市街地よりちょっと南の方にあると。もう1つのエポックは先ほど申し上げました工業団地の開発です。北上工業団地540ha、南部工業団地200ha、後藤野工業団地550ha、流通基地等々ございますが、独自にこの平成の前半ですけれども、工業団地開発をしていたと。多額の予算もかかっておりますけれども、まずそれで企業が集積した。もう1つは、東日本大震災のときですけれども、様々

NP0中心にですね、あとボランティアの方、一生懸命、翌日107号等を使ってですね、当時は釜石道ないですから、そこで一生懸命やってきたということで、今般、釜石秋田道は完全にできて、そういう中でですね、物流基地が北上もかなり立地をして、流通の中心、先ほども東北の十字路ということですけれども、大きくこの4つのエポックがあったと思っています。そういうような、社会情勢も踏まえて、企業活動、企業の投資マインドがありまして、雇用もそうですし、あと、様々な地域に溶け込んで社会活動もやっていただいております。北上市としましても今申し上げたような、政策がうまく回ってですね、こちらの循環といいますかサイクル。それが花開いて、循環、発展をしてきたというふうに思っております。具体には、人口がですね、合併後どんどん増えてきました。今は少子化ということで、令和2年、今7年、まさに国勢調査やっております。9万3千というのは、ちょっとそれよりは下がると思いますけれども、全国、或いは、岩手県の中では人口減少を抑えられるという。一方、立地企業数はどんどん伸びて、世帯数も伸びております。この北上のまちづくりというか、産業振興をやってきた経緯が企業誘致で雇用を生み出す。或いは、企業誘致だけではないですけど税収、住民税もいただいておりますが、税収を活用して社会資本整備、教育、福祉サービスの充実を図って、住みやすいまち。こうした結果で、人口定着、或いは社会増。若い世帯の企業に働く方の誘致を増加していったと。北上モデルとも言われております。

市長：一方、2050年問題だと言われておりますけれども、2050年、2020年ごろから言われてましたけれど、今から大体25年後になります。人口は20%減って、生産年齢人口は30%。64歳以下になりますが、減少すると言われております。これは、岩手県内では全然抑えられてる方ですし、今全国では人口30%減ると言われているので、それに比べてもまだいいんですけど、ただ、生産年齢人口30%っていうのは、まず全国並みと言われております。一方、製造業ですね。さらに北上の場合、製造業が多いものですから、2050年には約40%減少するだろう。2020年時点からですね。そのように、推計がされております。こうしたこと、かなり影響がある。消費額も落ちていきます。従業員の方の所得も落ちてきます。いきなり生産額が落ちて、結果、税収も減少してくると。このように予想しております。将来に向けて、こういう2050年に向けてですね、今何もしなければ、今申し上げたような形で、企業にとっても、社会にとっても厳しい状況が続くと。市の財政にとっても、やっぱりこの税収が減少していく。税収がなくても、国から交付税が来るでしょうという議論もあるんですけど、例えば今北上市の市税等が大体200億なんですが、仮にこれが半分に減りますと、普通交付税はですね、75%しか来ません。これ理論上の話ですよ。ですから、今500億でやってても、税収が100億に、半分になってしまふと、理論的には25億円分の財源が不足するということになります。そして交付税というのは75%しか戻ってきませんということです。今までご説明したことを簡単に申し上げますと、若い世代、働く世代が減る、消費も下がる、そうすると、企業の投資マインドも減っちゃうと。あと市税収入。市民サービス縮小危機ということで、縮小スパイラルに陥ってしまうと思っております。そして、やはりそういう2050年に向けて大きく2つの考え方があります。やはり、まず今までのやり方でやっていくのかということです。基金を毎年積み

立てて、将来、減っていく収入に対して貯蓄でやり過ごしていく。ただ、このやり方ですと、やっぱり中長期ですと、どうしても収入、市の財政の収入の規模が小さくなりますので、市民サービスへの影響が出てくると考えております。それを避けるためにも、新たに投資をするのを投資型と考えております。大学設置はこの投資型であると考えております。北上市が目指す未来ビジョンとしては、縮小変化し続ける社会において一人ひとりの多様な幸せと社会全体の豊かさの実現を核とした持続可能な活力ある社会を目指しております。そのためには、やっぱり減っていく人口でございますが、人数と能力の総和を維持向上させていくことが大事だと思っております。各人の能力の向上で補って、発展させていく必要性が大きいと思っております。この中では、いわゆる、外国人の議論はいろいろありますから、ちょっと外して考えてますが、まず、今の減少のペースでいった場合での対策と考えております。そのためには、優秀な人材、或いは企業の研究開発を担う高等教育機関の必要性が大きいとそのように考えております。これを先取りしたですね、取り組みが、ちょうど1ヶ月前、「知の総和」向上を意識した人材育成のための包括連携協定の締結というのを行いました。様々な市内の研究機関、なんかちょっと切っていますけど、各高等学校にも入っていただきました。あと、コンピュータ・アカデミー等にも入っていただいて、この人口減少社会に向けて、2050年問題に向けてですね、協働して人材育成、そして、労働生産性なりを上げていこうと。DX対応等もしっかりとやっているというような協定を結んでおります。これも先ほど申し上げたものの解説になりますが、その生産性を上げる、これはDX、或いは業務効率化、技術革新、そういったことで、手を打たない場合、なかなか工夫できませんが、そういうことで産業構造転換支援により、投資を促して、税収確保していくということでございます。一方、一定程度知の集積、技の集積への投資は引き続きやっていくと。

市長：そしてここでちょっとお話を変わります。我々が今考へてる市立大学基本構想は、本通り二丁目で考へております。街なかだけの投資ではないかということでございますが、やはり、あじさい都市というのが、総合計画でしっかりと謳われている北上市の計画の根っこにある考え方でございますが、都市拠点と、地域拠点、16地域に地域拠点がございます。そちらをしっかりとネットワーク、公共交通ネットワークなり、情報通信もそうですが、そういうもので結びをつけて、市全体で、しっかりと持続的な北上を維持していくという考え方でございます。そして、中心市街地というのは、歩行者目線ということでございます。16地区を支えている中心市街地をまずしっかりとやると。で、公共交通の拠点、ターミナルもございます。そういうまちづくり、或いは障害者に優しいまちづくりもそうですけれども、しっかりと維持をした上で、あとは公共交通等で地域を結びつけていくと。そういう考え方でございます。都市拠点というのは、この黒沢尻地区だけではなくてですね、江釣子地区にも商業業務型というのがございます。こちらは高速インターのすぐ近くでございますから、車で移動できる、自家用車もそうですけど、公共交通、JRもございますが、そのバスっていうのもしっかりとやっていかなければならない。そして、都市拠点の機能にはそういうバスターミナルとか、行政機能、教育、文化、防災等々ございます。地域拠点の機能は、生活拠点ということで、やはり公共交通をやって、

交流センター、学校、防災をしっかりと維持していくということでございます。今言った中心市街地の都市拠点の現在の再開発ですね。ご案内のとおり柔剣道場はできました。諏訪町は今動いております。クリニックなどが中心の景色に変わっていくところでございます。今申し上げるのはこのにぎわいゾーンと呼ばれている本通り二丁目地区でございまして、市立大学はこのツインモールプラザの向かい側に、一応基本構想の中では整備をする予定としておりまして、こちらもですね、学生さんが集まったりすることで、都市拠点の機能の一部となりつつ、やはり公共交通維持していくということで、大きな要素になってると思っております。

市長：ちょっと時間が少なくなってきたが、リスクですね、学生を集まるのかと。人口減少進んでおります。これ岩手県の18歳人口ですが、現在1万人。大学進学が4,370人。現在岩手県の進学率は全国47都道府県中46位です。下から2番目ですが43.3%。これが横ばいで推移した場合に人口減少、これ結構新しいデータなんんですけど、人口としては、2022年には5,609人。18歳人口。うち大学進学率、仮に今言った40%ちょっとであれば、2,373人ということですが、この流れ、これちょっと予測は難しいんですけど、大学進学率の全国平均が約60%です。高い東京とかはもう70%、80%近くなっております。これから1人っ子が多い中で、岩手県でも、進学率が上がっていくと思います。仮に50%の進学率であれば、2,800数十人、全国平均60%まで、全国平均も毎年上がってるわけなんですけれども、仮に今で行けば3,370人。これについては、今、岩手大学、県大、富士大学の定数を合計しても1,600人なので、今言ったこの2,373人であっても、まだ700人ぐらい、県外流れるということになりますけれども、そういうことでですね、これが50%とかになれば、さらに2,800数十人のうちの、今の定数これも毎年変わりますけど、今現在1,600人ですから、120人という定員は決して多くはないと思っております。そして、今回アンケートをやりました。保護者と県内高校2年生、9,500人弱にやりました。ちょっと回答数まだ途中ですけど、それほど多くはないんですけど、それによりますと、大学進学希望はほぼ同じなんです。50%近いです。希望している生徒さんが多い。あとは国公立に入りたいという人が多いです。理工系の現在の希望も結構あります。国も理系人材を増やしたいという政策を進めていますから、そういうことです。あとは構想のような、基本構造をつけてましたけど、それに対しても、考える、検討してますという生徒が結構います。今申し上げたとおり、例えば北上の市立大学を検討してもいいという方が一定数おりましたので、それは交通の便がいい、通学できるということがあったと思います。あと財政の問題ですが、これは基本構想に書いております。運営経費でございます。学生がですねしっかり定員どおりいけば、入学料、授業料、あと国から交付金もありますので、3年目だけが400万円の赤字ですが、それ以外は、運営費はですね黒字。あと初期経費、整備費でございます。整備費についても117億円は、非常に多額な金額ではございますけれども、基金等の最初の支出が8億。あとは、基金残高が、これを30年なり返していくことで、この度ちょっと細かい説明はしませんが、このたび新しい中期財政見通しを作ったところ、令和13年に底がきます。そのときは、北上市の起債残高総額で580億。あと、基金残高が29億2千万でございますが、こちらについても、国で決める様々な指標は健全財政で問題ないという、そういう指標となってお

ります。繰り返しになります。（会場：人件費はどこに書いてありますか。）人件費ですね。入っておりまます。支出、これ人件費が入っています。すみません、質問は後で受け付けますので。はい。すみません、ちょっと時間が来ましたので最後にですね、私の考え、思いを述べさせていただきます。4行目からになりますが、大学は地域に夢と希望をもたらすもの。これは基本構想策定委員会での委員の言葉です。先行きが読めないこの世の中だからこそ、この地に生きる者、生きようとする者に夢と希望を与えることが市政の大事な役割であると考えます。先人達はかつて、工場誘致構想を掲げ、町の年間予算約2年分の事業費を投じて黒沢尻工業高校を当市に誘致しました。その大きな決断が、当市発展の礎と言うべき企業誘致成功の引き金となりました。大学設置は、当市が将来に渡って活力あるまちとして持続するための手段であります。現状維持は衰退を意味します。地方中小都市の持続可能性が危ぶまれる中、今だからこそ先を見通し米百俵の精神のように、将来のための政策を進めることが我々には必要であると考えます。大学設置は、まさにその政策を実現するものであり、未来の北上市にとって重要な投資であると考えます。これを投資型と考えております。一方、もう一方の選択肢としては、これまでも継続的な取り組みで、基金を積み立てて将来に備える手法、貯蓄型というのもございます。この場合は中長期的に財政規模が縮小し、市民サービスの縮小に繋がる恐れがあると考えております。このどちらを選択したとしても、相当の覚悟が必要であると。もちろん、市当局もですし、それは私自身もそうです。今の北上市は先人たちからの贈りものであり、未来の世代からの預かりものです。私たちを育んでくれたこの北上を今より良いまちにして引き継いでいくことが、市政を預かる者としての私の責務であります。大学のあるまち北上の実現、すなわち未来への投資への、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。座ってのお話となり失礼しました。私の基調報告は以上でございます。大変ありがとうございました。

政策企画課長：市長ありがとうございました。それでは次に、トークセッションに移りますけれども、ステージの準備がございますので、少々お時間をいただきたいと思います。少々お待ちください。